

アジア太平洋地域の 保険産業の仲間が集い 意見交換を実施



生保労連は国内外の働く仲間とのネットワーク強化の一環としてUNIを通じて海外の働く仲間との連帯・交流を行っています。7月8～9日にスリランカのコロンボで開催されたUNIApro保険労組ネットワーク会議に生保労連から市川副書記長が参加しました。



▲活発な議論が行われました

UNIApro保険労組ネットワーク会議には9カ国40名が参加し、「デジタル変革と気候変動がアジア太平洋地域の保険産業に与える影響」をテーマに、意見交換が行われました。

会議冒頭、アチャリヤ地域書記長



◀日本の状況を説明する市川副書記長

は、デジタル化と気候変動の「ツイン・インパクト」が雇用や格差に影響を及ぼす中、その対応には組合の行動力と組織化が不可欠であり、保険部門の役割と地域・国際連帯の重要性、そして信頼と団結こそ鍵であると強調しました。

各国の状況報告が行われる中で、市川副書記長は「AIをはじめとしたデジタル変革における、日本の生保産業の状況」について説明し、生保産業におけるAIの活用実態について、開発フェーズから導入フェーズに入りつつあることや、「営業支援」と「事務処理の効率化」の2種類におけるAI開発状況を説明しまし

UNI(ユニオン・ネットワーク・インターナショナル)

世界150カ国の商業、流通、情報、金融、サービス等のホワイトカラーの900の労働組合が加盟する国際労働組合組織。組合員数は900組織、2,000万人。本部はスイス・ニヨン。

UNIApro

UNIの4つの地域組織のうちのアジア太平洋地域組織のこと。本部はシンガポール。20カ国、172組織、約233万人が加盟。

た。また、AIの活用により、業務効率化等が期待される一方、労働環境等での影響度合いは、見通すことが難しいので、状況の注視は必要である旨を訴えました。

生保労連は、引き続き海外の働く仲間との連帯・交流をはかっていきます。